

ちとせマグマ

独自技術で家畜糞尿・食品残渣の短時間処理

家畜糞尿や野菜等高含水率な物も独自技術で省エネ且つ短時間で処理可能なため、低価格を実現出来るようになりました。



商標登録



特許出願手続中
(独)産業技術総合研究所と共同研究

最高温度 107°C、通常でも 90°C前後の高温を長期間持続し、投入された家畜糞尿・生ゴミを短時間で強力に発酵分解するチップ菌床用の好気菌です。

現在、堆肥盤に積まれていて中々温度の上がらない畜糞などにちとせマグマを加えるだけで、温度を上昇させることが出来ます。更に、エアレーション施設を設置し空気を供給すれば 80°C～90°Cに簡単に温度を上げることが可能となります

TM菌床システム

ちとせマグマ菌体(木質チップ)を使った処理システム

- 1 好気環境で、菌床そのものが常時90°C前後の温度を維持し、含水率の高い畜糞や野菜などでも一定量であれば水分を飛ばすので、堆肥を作る上で一番大切な水分調整がグーンと楽になります。
菌体は木質チップで出来ているので、水分調整や通気の役割も果たしています。
- 2 高価な機械や設備が不要です。その分、機械の償却や修理コストもかかりません。
- 3 チップ菌床は通気可能な限り、形が無くなるまで繰り返し使えます。
- 4 完全発酵の良質な堆肥を作ることが出来ます。また、出来た堆肥は他の堆肥を作る時の発酵促進材としても利用出来ます。
- 5 千歳(マイナス20°C)育ちの菌ですので、寒冷地において冬期も十分にご利用になれます。

※ 堆肥作りの基本を守られていない場合は前述の様にいかないこともあります。